

女性だけで構成された宝塚歌劇団は、2019年に創立105周年を迎えます。宝塚が創設された1914年、日本では伝統的な日本の演劇形式とは異なる欧米式の演劇に関心が高まっていました。小林一三は、これを好機と捉え、歌やダンス、ドラマを融合した新しいエンターテインメントを作り出しました。宝塚歌劇は、フランスの演劇やアメリカのミュージカルの影響を色濃く受けており、1927年には、『モン・パリ ～吾が巴里よ!～』が制作されました。日本初のレビュー『モン・パリ ～吾が巴里よ!～』は、現在も続くロケットダンスを始めとする、それまでとは異なるタイプのパフォーマンスを取り入れ、以後、宝塚公演の象徴および雛形となっています。宝塚歌劇は日本で有名なだけではありません。ヨーロッパやアジア、北米にも遠征して公演を行っており、海外でも知られています。

宝塚歌劇団にはおよそ400人の団員が在籍しており、花（はな）組、月（つき）組、雪（ゆき）組、星（ほし）組、宙（そら）組の5つの組に分かれています。加えて、専科と言うグループもあり、組に配属され経験を積んだ人たちから形成されています。どこの組にも属さず、それぞれの組の公演には必要に応じて出演します。毎回の宝塚公演は、約1時間半の演劇の後に短い休憩が設けられ、劇中の人物はすべて女性が演じており、物語は多くの場合、主演男役と主演娘役を軸に展開されます。公演の後半では、観客たちはきらびやかな照明や生オーケストラと共に繰り上げられるミュージカルショーを堪能し、目を引きつけるほどのラインダンスを鑑賞することができます。

宝塚は、日本のエンターテインメント業界に大きな影響力を持っています。というのも、宝塚の団員の多くは、宝塚歌劇団卒業後にテレビや映画に活躍の場を広げるからです。